

永山商店街に関するアンケート調査の集計結果

1. 調査の概要

1-1. 調査目的

J R 永山駅を中心に広がる旧市街の永山商店街は、ライフスタイルの変化や大規模小売店の出店などにより、かつての賑わいを失っている現状にあります。こうした問題から、永山地域経済活性化中長期計画策定検討会（以下、本検討会という）では、永山商店街の利用調査や、永山商店街との関わりが深い屯田まつりに関する調査を行なうことによって、今後、どのように永山商店街を活性化し、賑わいを持たせていくのかということを検討することにいたしました。そこで、本検討会では、永山地域にお住まいの方や永山地域に通勤・通学をされている方を対象に、今後の永山商店街のあり方に関するご意見・ご要望をお聞かせいただきたく簡易的なアンケートを実施いたしました。

1-2. 調査対象

平成 29 年 10 月末現在において、永山地域にお住まいの方や永山地域に通勤・通学をされている方 100 名を対象に調査を行なった。

1-3. 調査方法

- ・無記名によるアンケート調査。
- ・永山まちづくり実行委員会・永山地域経済活性化中長期計画策定検討会が配布、回収を行なった。

1-4. 調査期間

調査期間は、平成 29 年 10 月 2 日（月）から平成 29 年 10 月 31 日（火）まで

1-5. 回収結果

回収結果は、標本数 100、回収数 99、回収率 99%

1-6. アンケートの概要

- ・永山商店街の利用状況について
- ・永山屯田まつりについて

1-7. アンケートのまとめ（要約版）

今回実施した「永山商店街に関する簡易アンケート調査」の結果をまとめると、以下のようになる。

【永山商店街の利用状況について】

- 永山商店街は、永山地域に居住、通勤、通学している人たちの日常的な買い物の場として十分に機能していないことが伺える。
- 永山商店街の日常的利用者は、近隣に長く居住している高齢者が多い。また、永山商店街で最も多く利用されている店舗は「コンビニエンスストア」となっており、個人商店の利用率は低い。
- 永山商店街の非利用者は、近隣の学校へ通学する20代の学生が多く、永山商店街は学生街の商店街として機能していないことが伺える。
- 永山地域に居住している人たちの多くは、近隣の大規模小売店を中心に普段の買い物を済ませており、日常的な買い物に対してあまり不便を感じていない。
- 永山商店街に期待する役割としては、「日常的な買い物の場」「祭りや伝統文化の継承」「高齢者の買い物支援」などの割合が大きい。
- 永山商店街のにぎわい創出のために必要だと思うことは、「個店の魅力の向上」や「集客力のあるイベントの実施」「若者のアイデアなどの取り込み」などの割合が大きい。
- 永山商店街のにぎわい創出のための参加意向は、70歳代以上が最も高く、20歳代が最も低くなっており、若者の参加意向は極めて低い。

【永山屯田まつりについて】

- 永山屯田まつりの参加率は62%と高い割合を示している。しかし、クロス集計によって属性分析を行なうと、若者の参加率が極めて低い。
- 永山屯田まつりの参加者の満足度は高い。また、永山屯田まつりの催しでは「あんどん」や「出店、屋台」、「太鼓演奏（屯田太鼓）」などの評価が高い。
- 永山屯田まつりに参加しない理由としては、「関心、興味が無い」が最も高い割合を示しており、20歳代の若者においては、それが顕著となっている。